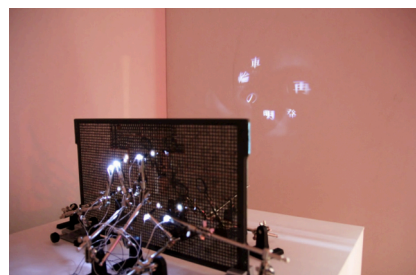


プロジェクトの概要

本プロジェクトでは、旧来のアートやデザインという枠に囚われること無く、各々の関心に応じたメディアの過去を読み解き、現在の素材や加工技術、社会情勢を踏まえたそのあり方を探っている。対象の制作を通じて歴史を読み替え、ありえたかもしれない「今」をつくりだし、表現のあり方そのものを再定義することを試みている。二年目となる2014年度は、定期的なプロジェクト・ミーティング、ワークショップに加え、外部での展示とゲストを招いたトーク・イベントおよびパフォーマンスを中心に研究活動を行った。



クワクポリョウタ、瀬川晃、写植文字盤による多光源植字【車輪の再発明】、マテリアライジング展II、東京藝術大学(2014)

参加メンバー

教員

城一裕（講師）

クワクポリョウタ（准教授）

瀬川晃（准教授）

学生

石川琢也、石塚千晃、ハンチョンミン、丸山透、酒井亮（M2）

大久保雅基、大山千尋、北堀あすみ、佐藤大海、瀬長孝久、ソルスンジェ（M1）

活動の概要

1 プロジェクト・ミーティング

月に数回のプロジェクトミーティングを行い、この中では主に各メンバーの研究の進捗を確認するとともに、その他の活動の内容・スケジュールを検討した。夏休みには課題制作を実施し、プロジェクト内で講評を行った。

2 ワークショップ

メンバーとともに様々な技術の活用法を検討する場として、「Little Bits Cloud」と「針金」に関するワークショップを行った。



ワークショップ「針金」(2014)

3 IAMAS オープンハウス 2014

学生の研究成果の発表を中心に、修士作品・研究に向けた Work in Progress の取り組みを紹介した他、関連の書籍を集めたブックリストを作成した。

4 IAMAS 2015

学生の研究成果の発表として、太陽を表現の素材として捉えた作品を展示した。

5 マテリアライジング展 II

東京藝術大学大学陳列館で開催されたマテリアライジング展 II 2014-7-19(土) - 8-8(金) に、プロジェクトとして出展し、以下の作品を発表した。

- 城一裕「月の光に -エドアード・レオン・スコットとモホイ=ナジ・ラースローヘ-」1860/1923/2014
- 城一裕「断片化された音楽」2014
- クワクポリョウタ、瀬川晃「写植文字盤による多光源植字」2014
- クワクポリョウタ、「針穴をあけた紙を通した RGB 光源による網点プロジェクション」2014

6 トーク・イベントおよびパフォーマンス

数ヶ月に一度の頻度で外部からゲストを招き、以下のトーク・イベント、パフォーマンスをおこなった。なお、これらのイベントは全て外部にも公開で実施した。

- アレッサンドロ・ルドヴィコ、内田聖良「ポスト・デジタル・パブリッシング - インターネットの余白から考える本の未来 -」2014・4・3.
- デイヴィッド・トゥーブ「シニスター・レゾナンス (不吉な響き)」2014・10・23
- 宮崎申太郎「クリティカル・メディア、歴史を知る事の重要性」2015・1・13
- 畠中実、城一裕、水野雄太「IAMAS/メディア表現の現在形」IAMAS2015, 2015・2・19

IAMAS OPENHOUSE 2014 車輪の再発明プロジェクト学生展示

車輪の再発明プロジェクトでは実証を通じて歴史を振り返り、ありえないかもしれない「今」をつくりだします。今回のオープンハウスの展示では参加学生による研究の成果発表を行います。修士作品・研究に向けた Work in Progress の取り組みをぜひご覧ください。

- 展示-0 身体性とゲームシステムを用いた芸術作品の模索 -johnsmith**
昨今のゲームは娯楽の場からいかに娯楽的かという価値観をもち、本来ゲームとは子供の頃に経験したようなもっと単純で想像力を喚起するべきものであった。本研究では、ゲームという行為と娯楽の両方をもちに、個人個人の身体性(視力、聴力、触覚など)を能動的に活用し、娯楽する芸術作品の模索を行う。
今回の展示ではスマートフォンという身近なデバイスを用いた、常に手元に有利な、また経験による熟練度の差を生じないゲームを提案する。
- 展示-1 針金録音に基づくサウンドインスタレーション -Reck Hahn**
聴覚は私たちが最も意識して使う感覚の一つである。視覚に比べて20%程度に低いという事実を今年より一般の人が使うことが出来た。もちろんスマートフォンやタブレットも存在してなかった。
本研究では様々な音(録音)の要素のレコーディング後に集めて20の録音機を順番に繋ぎ合わせることで音の質感を再現する。音の質感が再現されることで、それが再現されるものがないという事実。
また、私たちが生活している世界は、音の質感が再現されることで、それが再現されるものがないという事実。
また、私たちが生活している世界は、音の質感が再現されることで、それが再現されるものがないという事実。
また、私たちが生活している世界は、音の質感が再現されることで、それが再現されるものがないという事実。
- 展示-2 人間の視覚が拡張した世界についての研究 -小嶋洋一**
私たちが生活している世界は、視覚や聴覚、建築まで、人間の身体、行動に合わせて設計されている。しかし、現在私たちが生活している世界は、少なくとも視覚においては多種多様な身体性が再現可能な世界である。私たちが生活している世界は、視覚や聴覚、建築まで、人間の身体、行動に合わせて設計されている。しかし、現在私たちが生活している世界は、少なくとも視覚においては多種多様な身体性が再現可能な世界である。私たちが生活している世界は、視覚や聴覚、建築まで、人間の身体、行動に合わせて設計されている。しかし、現在私たちが生活している世界は、少なくとも視覚においては多種多様な身体性が再現可能な世界である。
- 展示-3 素材・道具**
展示のプロジェクトで用いている素材・道具を展示しています。
- 展示-4 (図書) 車輪の再発明ブックリスト -2014.7-**
本プロジェクトに関連する書籍をWDSH 2階図書室にて展示しています。
- 展示-5 (学外) マテリアライジング展II 情報と物質とそのあいだ**
東京藝術大学美術陳列館にて7月18日から8月1日にかけて開催されている「マテリアライジング展II」に車輪の再発明プロジェクトとして4つの作品(技法)を出展しています。 <http://materializing.org/>

担当教員：城一裕、クワクポリョウタ、瀬川晃

IAMAS オープンハウス 2014 "車輪の再発明"



デイヴィッド・トゥーブ、「シニスター・レゾナンス (不吉な響き)」でのパフォーマンス風景